みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング㉒

坂之下 柳瀬荘

市内東部の坂之下には、大正から昭和にかけて活躍した電力事業家松永安左卫門（1875～1971）の別荘である柳瀬荘があります。国道463号線（通称・浦和所沢街道）が川越街道と交差する英インターチェンジにさしかかる手前、左手に見える長屋門の脇の通りを上って行ったところです。

柳瀬荘

柳瀬荘は、昭和５年から同23年までのあいだ松永氏の別荘として使われました。敷地内には、柳窪村（現東久留米市内）の大庄屋村野家の住居を譲り受けて移築した黄林閣と呼ばれる建物を中心に、斜月亭や久木庵という別棟が配置されています。

黄林閣は、貴重な武蔵野の民家建築として昭和53年に国の重要文化財に指定されました。松永安左卫門は長崎県出身で、多くの電力事業を手がけ、なかでも終戦後の電力再編成に取り組んだ際、持論を通して譲らなかったことから「電力の鬼」と呼ばれました。

一方で彼は古美術収集家、茶人としても知られ、柳瀬荘を訪れた茶人の１人は古美術品がたくさん置かれていたと雑誌に記しています。彼が茶をはじめたのは、60歳になってからでした。茶人としての号を「耳庵」といいましたが、これは『論語』の一節「吾十有五にして学に志し（略）六十にして耳順」からとったものです。一時は政財界など各界から多くの人が招かれ、茶会や古美術鑑賞会が催されました。

昭和14年、電力界からいったん身を引いた松永氏は茶道ざんまいの生活を送り、柳瀬荘にたびたびこもりました。終戦から翌年までをこの山荘で過ごした氏は、年明けの元旦、零下４℃という寒さのなかで「これくらいめでたいことはない。その代り極寒にもまさる厳しさがじかに各人の身に迫り来るのである」と日本の将来を案じる言葉を日記に残しました。

今では周囲の景観もすっかり変わっていますが、当時は長屋門の前に水田が広がり山荘からは平林寺（新座市）の樹林や武蔵野の原が、見晴らせたといいます。

松永氏は武蔵野の風景を好んだのでしょう。彼の墓地は平林寺にあります。

―柳瀬荘の公開日―

公開日時　毎週木曜日に公開します。
4月～9月　午前10時～午後4時
10月～3月　午前10時～午後3時
問い合わせ　☎944-2009

―交通あんない―

所沢駅から志木駅行きバスで25分、バス停「西側」下車徒歩3分

▲鍛えられた舌で吟味します。真剣な面持ちで生産地を鑑別する闘茶会。　１月９日㈬／市内結婚式場

▲今日から大人の仲間入り。同級生と再会し、楽しいひと時を過ごした成人のつどい。
１月14日㈷／新所沢東公民館

▲手作りなのでみんな形が違います。どれを買おうか迷います。水天宮のだるま市。
１月５日㈯／久米水天宮

▲農作物の豊作を祈って紅白団子を飾ります。たくさんの子どもたちが集まったまゆ玉まつり。
１月12日㈯／柳瀬公民館

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「ところざわ」▶皆さんの思い出と夢を大切に育みながら時代と共にまちは変化しています▶そこには家族の歴史もあるかもしれません▶昔は良かった。今のこんなところが好き！▶ところざわにまつわる楽しいエピソードをお待ちしています▶締め切りは２月14日㈭必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

誰でもエッセイ

テーマ〝期待すること〟

目指せ！ 優勝を

山口・山本　映

昨年は、西武ライオンズの応援に、西武ドームに足しげく通ったが、その甲斐なく、３位の成績に甘んじてしまった。ファンの１人として、大変悔しい思いをした。

私が、西武ライオンズの試合を観戦して、率直に感じたこと。それは個々の選手が性格的に真面目で、温厚、かつ紳士的で、好感のもてる人間性であるということ。

そのため、真面目で温厚な人間性ばかりが目立ち、選手の内に秘めたる闘志や執念が試合を介して、ファンに伝わってこないもどかしさがあった。

今年こそ、攻撃的野球が、井原新監督さい配のもとで、チームのキャッチフレーズである「栄光へTit！Foot！Get！」を合言葉に実を結び、西武ライオンズが名実共に、パシフィックリーグの王者に、君臨することを期待したい。

こんな世界になってほしい

東狭山ヶ丘・加藤　富美子

期待することと言えるかどうかわかりませんが、望むことはただ一つ。すべての人が平等で幸せであること。

それは、誰かが誰かを傷つけないこと。特に弱いものいじめのない社会になってほしい。

去年のような小学校低学年の幼い子どもの命を奪うような事件がもう２度と起きない様に。

ニューヨークの同時テロのようにまったく関係ない一般市民の命を自分たちの主義主張の道具のように使わないでほしい。

どこの国のどんな境遇の子どもたちも同じようににこにこ笑って元気に遊んで学べて、そして楽しく希望にあふれて生きていける、そんな世界が一番だとみんなで考えてほしい。

ターニングポイント

並木・横須賀　みどり

「期待」という言葉が追いかけっこしていた時代を過ぎ、人生の折り返し点に立った今、自分自身にこの言葉を贈ることにしました。ラジカセから流れる曲に耳を傾けながら自分の夢に向かって机の前に座ります。

「今年もまた頑張るっもり」という声が心の中から聞こえてくる。「期待」という言葉の意味を考えながら、休日はメガネ片手に図書館通いをしていることでしょう。

ぎっちょでGO！

西所沢・相良　武雄

月日の経つのは早いものでわが家の長男も４月に小学１年生。

自分ではさほど感じないのだが、その容姿は日に日に私に似てきているらしい。顔形、上背ならわかるが、「骨格もそっくり！」などと言われると「Ｘ線じゃあるまいし…」と勘ぐりたくもなる。

被害妄想なのか、自分がコンプレックスに感じている部分に限って似ていかれるような気がして、気が気でないのだ。

ただ、確実に違うことがある。息子は左利きなのだ。親族を見回してもきわめて珍しく、箸は？筆は？と戸惑うことしきり。グローブのお古は使えないし、コツ回しのもの巻き方も教えにくい！

が、世に左利きは器用と言う。私と異なるサウスポーこそ、将来への期待のあかしと考えよう。

さてどうなることやら…。

ふれあいひろば

美原町・荻原　誉朗

私は、昨年11月に、「ふれあいひろば」というグループのスタッフの一員になりました。

このグループは、障害者と健常者が共に仲間として交流し、文化活動やスポーツ、レクリエーション活動など行う団体です。

初対面でも気軽に話せる仲間や先輩がたくさんいて、アットホームな雰囲気だなあと感じました。

私の妹は知的障害者ですが、月１回の「ふれあいひろば」の活動を毎回楽しみにしている様子です。

これからも私たち兄弟ともども、楽しい「ふれあいひろば」であり続けるように願うとともに、友達の輪が大きく広がっていくことを期待しています。

期待を川柳に託して

上安松・西村　ヒサ子

日常の暮らしのなかでふと感じるさまざまな期待を川柳に託してみました。

「やっぱりね　家族の健康　そうだろね」…昨年のヒット曲のようですが、健康でありたいと願う気持ちが一番ですね。

「定年後　待ってましたと　家事分担」…今は、２分８分、やがて５分５分でよろし。

「元気だね！　孫に夢抱く　祖父母馬鹿」…エネルギーあふれる孫たち、将来なにかうれしいことをしてくれるのでは。

「期待のみ　いつも外れる　宝くじ」…一瞬の夢を追う。これは、これで良いのでしょう。

「お願いね　魅力あるまち　ところざわ」…まだまだ自然豊かな私たちの住むこのところざわが、いつまでも平和であることを期待します。

人工骨に期待します

青葉台・岩間　喜久子

両股関節に入っている人工骨様、どうぞ私と仲良くしてください。

私は、３年ほど前に両股関節を人工骨に換えた。それを忘れ、昨年末リハビリを頑張りすぎたのか、その数日後ぎっくり腰。

人工骨を忘れていたことの報いである。これからは、決してあなたのことを忘れませんので、機嫌を直してください。今年も期待しています。

壁

久米・井原　喜一郎

数年前から始めた写真も一向に上達せず、腕が悪いのか感性が乏しいのか。それとも研究心が不足なのか、まったく前が見えない状態が続いています。

壁にぶつかるとよく言われますが、私にはまだ壁などはありませんので、あるのは、今の気持ちを何とか前に押し出してくれるものが欲しいということです。

新しい年を迎えて気分も新たに、改めて自分自身に挑戦。心のどこかに期待するものがあるんじゃないかと、それに望みを託して頑張ろうとつづく思う次第です。

スーパーボーイ

下安松・藤井　あかね

わが家に長男が誕生した。誕生する１か月前まで仕事を続けていた私の中には、「早く出てきて！身軽になりたい」という気持ちと「もう少し二人三脚もいいかな」という気持ちが交錯していた。

あれから１年ちょっとが過ぎ、子どもも１歳３か月を迎えた。私自身、身体的にも精神的に１年前とあまり変わっていないが、子どもは違った。

たった１年でこんなにも成長するとは、育児初体験の私にはビックリすることばかり。人の真似ははいえ、昨日出来なかった事を今日はやってのけてしまうわが家のスーパーボーイ。

とかく暗い話題の多い昨今、こんな小さなスーパーボーイの将来に、親ばかながら期待してしまう今日このごろです。

次回のテーマは「ところざわ」です

はつらつ ところ野老っ子

所沢飛白（かすり）の魅力を伝えたい

宮本八恵子さん
（下安松在住）

皆さん、所沢飛白をご存知でしょうか。明治の後半に大流行して庶民に好まれ、最盛期には全国へ出荷されました。かつては、所沢の織物産業の中心を支えましたが、昭和10年ごろには新しい織物の登場等の影響で、姿を消してしまった幻の飛白です。

宮本八恵子さんは、県の文化財保護審議会委員をつとめるかたわらこの飛白の復活に力を注いでいます。

フィールドワークを通してたくさんの人たちから集めた飛白に関する話や資料をもとに、昭和61年には、「所沢飛白」という本を自費出版しました。平成元年には、伝承者の協力を得て飛白を復元しています。その後、高齢化による伝承衰退の危惧を実感したそうです。そのことが「所沢の重要な産業の一つであった所沢飛白を、なんとか若い世代の力で伝え残していかなければ」という今回の復元への思いにつながりました。

所沢飛白復元には、染織家田口和子さんとの出会いが大きな励みとなりました。田口さんの染織技術との二人三脚に加え、山口郷土民俗資料保存会の協力も得て、飛白が復元されたのです。

所沢飛白の魅力については「糸が太く、生地が丈夫で、柄は単純で大きく、求めやすい価格が庶民の味方でした」と明快な答えが返って来ました。飛白の模様は、春の田の雪解けを思わせ、春を待ちわびる北国の人々には、大変人気があったようです。

所沢飛白復元のようす

現在は、山口郷土民俗資料保存会のメンバーと定期的に勉強会を続けています。

今後の抱負について尋ねたところ、「将来は、所沢飛白の研究会をつくり、広くその魅力を伝えたい。伝統を残しながら、若い人にも受け入れられるような現代の生活様式に合った21世紀の新しい飛白を完成させたいんです」と大きな夢を語ってくれました。

民俗学とは対照的にドラムをたたくことが趣味という宮本さん。ドラムのリズムと織りのリズムには、共通のものがあるようです。

ご覧ください

テレビ埼玉

●所沢リポート
2月15日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映
『小さな環境リーダーの誕生』
シティケーブルネット

●広報ところざわ テレビ情報館
2月21日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります　▽洋服ダンス（幅90cm×奥行57cm×高さ180cm）▽藤製のもの入れ（幅70cm×奥行42cm×高さ125cm）▽藤の鏡台▽健康足踏み機▽剣道具一式▽ポーチ式ダッコひも▽おんぶダッコひも▽幼児用足こぎ自転車▽トースター▽スチームアイロン（コードレス）▽CDチェンジャーラジカセコンポ（カラオケ用マイク付）

●求めます　▽チェスト▽テレビ（大型）▽掃除機▽布団乾燥機▽加湿器▽アップライトピアノ▽子ども用自転車▽ロックミシン5本糸用▽簡易車いす▽電動車いす

受付方法　電話による先着順で紹介します。利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎941-0008）